

1. アングロ・アメリカン社(Anglo American plc)

1. 企業概要

| | |
|--------|---|
| 本社 | イギリス・ロンドン |
| 主要事業 | 非鉄金属鉱山、ダイヤモンド、石炭、工業原料、鉄鋼、木材・木材製品 |
| 従業員数 | 204 千人(J/V 及び権益保有会社分を除く) |
| 決算日 | 12 月末日 |
| 主要関連会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・ アングロゴールド社 (Anglogold Ltd.: 53.2%) ・ アングロ・プラティナム社 (Anglo American Platinum Corporation Ltd.: 59.6%) ・ デ・ピアス社 (DB Investments: 45.0%) |

2. 財務状況 (US\$ million)

| | 2001 年 | 2000 年 | 1999 年 |
|--|--------|--------|--------|
| 売上高 Group and share of turnover of joint ventures and associates | 19,282 | 20,570 | 19,245 |
| 当期利益 Profit for the financial year | 3,176 | 1,957 | 1,552 |
| 資産 Total assets | 25,501 | 30,616 | 26,547 |
| 流動資産 Current assets | 7,118 | 8,375 | 7,109 |
| 負債 Total liabilities | 12,075 | 15,072 | 10,423 |
| 流動負債 Current liabilities | 6,237 | 7,425 | 3,610 |
| 株主資本 Total shareholders' funds | 13,426 | 15,544 | 16,174 |
| 探鉱費 Exploration expenditure | 101 | 116 | 138 |

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

| | 2001 年 | 2000 年 | 1999 年 | 2001 年の 世界シェア |
|-----------------------------|--------|--------|--------|------------------|
| 銅鉱石 (000 t) | 665.5 | 559.3 | 424.1 | 4.9 % (7 位) |
| 鉛鉱石 (000 t) | 54.3 | 78.8 | 77.5 | 3.0 % (7 位) |
| 亜鉛 (000 t) | 165.6 | 142.0 | 121.2 | 2.2 % (11 位) |
| ニッケル鉱石 (000 t) ¹ | 47.1 | 33.9 | 29.8 | 3.6 % (7 位) |
| 金 (t) ² | 217.2 | 225.3 | 215.1 | 9.1 % (1 位) |
| 白金 (t) ² | 65.6 | 58.2 | 62.9 | 41.4 % (1 位) |
| パラジウム (t) ² | 32.6 | 29.4 | 31.6 | 22.8 % (2 位) |
| ロジウム (t) ² | 6.2 | 5.1 | 5.3 | 30.6 % (1 位) |
| クロム鉱石 (000 t) ³ | 1,012 | 1,476 | 1,360 | 9.3% (4 位) |

¹ アングロ・プラティナム社の生産分を含む。

² 金はアングロゴールド社、白金族はアングロ・プラティナム社の生産量。

³ クロマイトの世界シェアは 1999 年の数字。

4. 沿革

アングロ・アメリカン社の前身である Anglo American Corporation of South Africa(以下 AAC) は、1917 年、南アフリカに設立された。その後、経営の多角化、アングロ・アメリカン社への改組を経て、鉱物資源のみならず工業、林業、建設業、金融サービス業など幅広い分野に事業を展開する 1 大企業グループを形成している。

1917 年 9 月、ダイヤモンドへの投資で成功したアーネスト・オッペンハイマー卿(Sir Ernest Oppenheimer) は、イースト・ランド深部金鉱床(East Rand) の開発を目的として AAC を設立した。同社の社名は、英国、米国、南アフリカなどから資本金が集められたことに由来する。

26 年、Daggafontein 金鉱山の開発成功ならびに Brakpan、Springs 両金鉱山の拡張により成長の足がかりを作った。同年、ダイヤモンドのリーディング・カンパニーであるデ・ピアス社の筆頭株主となった。

28 年、現ザンビアの“カッパーベルト(Copperbelt)” 開発を目的としてローデシアン社(Rhodesian Anglo American Ltd.) を設立、同年、南アフリカの“ブッシュフェルト複合岩体(Bushveld igneous complex)” を発見した Hans Merensky 氏とパートナー・シップを結び、翌年にはオッペンハイマー卿がデ・ピアス社のチェアマンに就任するなど、このころまでに貴金属・ベースメタル・ダイヤモンドを軸とした AAC 社の基礎が固められた。

42 年、SA Township 社を買収することでフリー・ステート鉱区の権益を取得、さらに 44 年、ウェスタン・リーフス周辺地域の調査・開発を目的としてバール・リーフス社(Vaal Reefs Exploration & Mining Co. Ltd.) を設立し、南アフリカにおける金鉱山開発を積極的に推進した。

61 年、ハドソン・ベイ社(Hudson Bay Mining & Smelting Co. : カナダ) の権益を取得、これはアフリカ以外で最初の大きな投資であった。

60 年代から 70 年代、金属資源以外の分野へ相次いで投資、Amic 社(63 年 : 工業原料)、Mondi グループ(67 年 : 紙・木材)、Amcoal 社(75 年 : 石炭) などを設立するとともに、鉄鋼生産技術の開発にも乗り出した。

71 年、ザンビア“カッパーベルト” の国有化に伴い、ローデシアン社はザンビアの直接権益を処分、南アフリカ Bermuda に本社を移し、社名を Minerals & Resources Corporation 社に変更した。同社は、74 年にミノルコ社(Minorco SA) と再度社名を変更、87 年にはルクセンブルグに本社を移転した。

85 年、フリー・ステート鉱区の鉱山を整理・統合し、フリーゴールド社(Freegold = Free State Consolidated Gold Mines Ltd.) を設立した。

90 年代、国際競争力強化を目的として、AAC 社はその複雑な権益関係の整理に乗り出した。その一環として、93 年にアフリカ以外の資産(ダイヤモンドを除く) をミノルコ社に集約、95 年には AAC 社が 39.7% の権益を保有した JCI 社(Johannesburg Consolidated Investment Co.) の資産を白金族金属・ダイヤモンド部門(アンブラッツ社 : ダイヤモンド資産は後にデ・ピアス社に移管)、その他鉱業部門(新 JCI 社)、工業部門(Johnnic 社) に分割し、Johnnic 社および新 JCI 社の権益を黒人投資家に譲渡することを決定した。また、98 年 6 月、バール・リーフス鉱山(Vaal Reefs) を母体としてフリーゴールド社を含む傘下の 5 金生産者、2 探鉱会社および JCI 社が権益を保有したジョエル鉱山(Joel) を合併し、アングロゴールド社を設立した。さらに同年、Amcoal 社および Amic 社の少数権益を買い占め、これらを 100% 子会社にするるとともに、世界最大のマンガン・クロム合金プロデューサーであるサマンコール社(Samancor Ltd.) の権益 40% を取得した。

こうした再編の結果、AAC は事業部門別に系列子会社を所有する持株会社としての性格を強め、ついには 99 年 5 月 24 日、ミノルコ社を合併し、アングロ・アメリカン社としてロンドン株式市場に上場、同時に本社をロンドンに移転した。

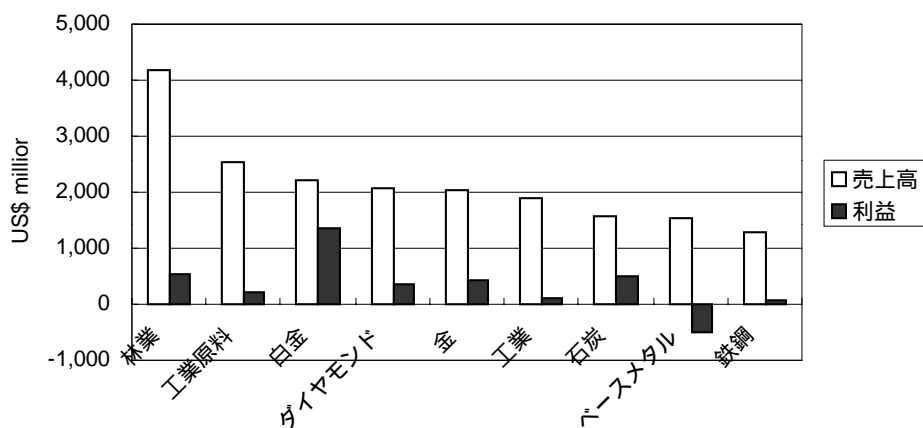
5. 事業内容

アングロ・アメリカン社は金、白金族、ダイヤモンド、石炭、ベースメタル、工業原料、

鉄鋼・工業、林業の 8 部門について事業を行っているほか、探鉱・買収・技術サービス部門が各部門を横断して活動している。

2001 年の部門別の売上高は、林業の売上高が最も大きく、アングロ・アメリカン社全体の 21.6% を占めた。次いで、工業原料 (13.1%)、白金 (11.5%)、ダイヤモンド (10.7%) となっている。

2001年の部門別売上高と利益



利益は Operating Profit

(1) 金

アングロゴールド社に 53.2% の権益を保有し、アフリカ、オーストラリア、南北アメリカで鉱山を操業している。

アフリカの鉱山としては、南アフリカでバール・リバー、ウェスト・ウィッツおよびエルゴで生産を行っているほか、モリラ、サディオラ、ヤテラ (以上マリ)、ナバチャフ (ナミビア)、ゲイタ (タンザニア) の各鉱山に権益を保有する。なお、フリー・ステート地域の鉱山は 2002 年 1 月にハーモニー・ゴールド (Harmony Gold Mining) 社と ARM (African Rainbow Minerals) 社の JV に売却している。

米国ではクリップル・クリック&ビクター (コロラド)、ジェリット・キャニオン (ネバダ) 南米ではモロ・ヴェーリョ、セラ・グランデ (以上、ブラジル)、セロ・ヴァングアルディア (アルゼンティン) の各鉱山に権益を保有する。

また、1999 年末にオーストラリアの Acacia Resource 社を買収し、2000 年からオーストラリアにおける金生産を計上した。

その他の金資産として、アングロ・アメリカン社は GFL 社 (Gold Fields Ltd.: 南アフリカ) に 20.0% の権益を保有する。GFL 社は、98 年、かつて南アフリカの 6 大マイニングハウスの一つとしてそれぞれ知られていた GFSA 社 (Gold Fields of South Africa Ltd.) とジェンコール社 (Gencor Ltd.) が両社の金資産を統合して設立された世界 4 位 (01 量) の金プロデューサーである。なお、アングロ・アメリカン社は 2001 年に金融サービス部門の FisrtRand 社の売却に関連して GFL 社の権益を 16.7% に引き上げ、2002 年 6 月には 20.0% にまで引き上げている。

なお、同社設立の際、ドリエフォンテイン鉱山 (Driefontein Consolidated Ltd.) が母体となることに AAC が反対し、これを阻止した経緯がある 5)。この際、AAC はドリエフォンテイン鉱山の直接権益を 21.5% に引き上げたが、99 年、資産整理のために同鉱山の直接権益を全て売却した。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

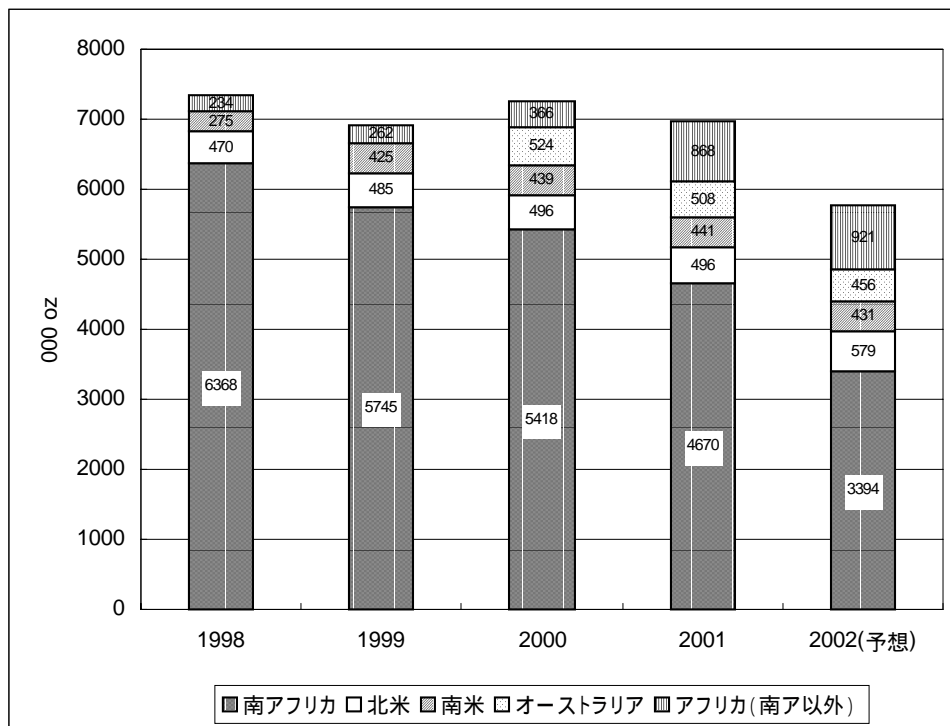
| オペレーション名 | 権益 ⁴ % | 埋蔵量 百万 t | タイプ | 品位 | 生産量 (権益分) |
|--|----------------------|-------------|----------|----------|-------------------|
| パール・リバー (南アフリカ) ⁵ Vaal River | 100 | 80.5 | UG | 8.50 g/t | 55.5 t |
| ウェスト・ウィッツ (南アフリカ) ⁵ West Wits | 100 | 37.1 | UG | 9.93 g/t | 38.2 t |
| エルゴ (南アフリカ) Ergo | 100 | 69.3 | Tailings | 0.38 g/t | 10.3 t |
| モリラ (マリ) Morila | 40 | 27.7 | OP | 4.78 g/t | 19.6 t (7.8 t) |
| サディオラ (マリ) Sadiola | 38 | 36.0 | OP | 3.26 g/t | 16.7 t (6.3 t) |
| ヤテラ (マリ) Yatela | 40 | 12.3 | OP | 3.55 g/t | 4.1 t (1.6 t) |
| ナバチャフ (ナミビア) Navachab | 100 | 4.5 | OP | 1.65 g/t | 2.7 t |
| ゲイタ (タンザニア) Geita | 50 | 62.7 | OP、UG | 3.83 g/t | 17.0 t (8.5 t) |
| クリップル・クリーク&ピクター (米国) Cripple Creek & Victor | 66.7 ⁶ | 142.2 | OP | 1.10 g/t | 6.7 t |
| ジェリット・キャニオン (米国) Jerritt Canyon | 70 | 3.4 | OP、UG | 8.86 g/t | 12.5 t (8.8 t) |
| モロ・ヴェーリオ (ブラジル) Morro Velho | 100 | 6.2 | OP、UG | 7.47 g/t | 6.5 t |
| セラ・グランデ (ブラジル) Serra Grande | 50 | 4.2 | UG | 7.33 g/t | 6.0 t (3.0 t) |
| セロ・ヴァンガルディア (アルゼンティン) Cerro Vanguardia | 46.25 | 8.4 | OP | 9.46 g/t | 9.1 t (4.2 t) |
| ユニオン・リーフス (オーストラリア) Union Reefs | 100 | 2.7 | OP | 1.08 g/t | 3.5 t |
| サンライズ・ダム (オーストラリア) Sunrise Dam | 100 | 17.0 | OP | 3.55 g/t | 9.2 t |

アングロゴールド社の金生産は、南アフリカでの生産が全体の約 70%を占めるが、鉱床の深部化・高コスト化が進んでいるため、閉山・売却等を含め南アフリカの鉱山の効率化を進めるとともに、南アフリカ以外の鉱山の獲得を進めている。

⁴ アングロゴールド社の権益。

⁵ パール・リバー、フリー・ステート、ウェスト・ウィッツの埋蔵鉱量及び埋蔵品位は、各オペレーションに属する鉱山の埋蔵量及び埋蔵位から算出した。

⁶ 66.7%は Cripple Creek & Victor 社に対する権益であり、生産された金に関しては 100%の権益を有する。



アングロゴールド社の金生産の推移
(1998年の北米・南米の生産はミノルコ社)

- ・ 南アフリカでは、パール・リバー、ウェスト・ウィッツに各鉱床帯に属する6鉱山及び尾鉱処理を行っているエルゴ処理場で生産を行っている。
- ・ 2001年2月に、ウェスト・ウィッツ鉱床帯のElandsrand鉱山及びDeelkraal鉱山をハーモニー・ゴールド社に売却した
- ・ パール・リバー鉱床帯に属するモアブ・ホッツソン (Moab Khotsong) 鉱山を現在開発中で、2003年第4四半期から生産開始、2006年にフル操業となる予定である。2015年までに4.5百万ozの金を平均キャッシュ・コストUS\$97/ozで生産予定である。
- ・ 40%の権益を有するマリのヤテラ (Yatela) 鉱山はサディオラ鉱山の北方25 kmにあり、2001年9月から正式に生産を開始した。
- ・ オーストラリアのボディントン鉱山及びタナミ鉱山は鉱量枯渇のためそれぞれ2001年11月及び2001年11月に閉山した。しかし、ボディントン鉱山周辺で金鉱床が発見されており、現在探鉱を継続中である。

(2) 白金族

アングロ・プラチナム社に59.6%の権益を保有する。

同社は、95年、旧JCI社の白金族金属資産であるルステンブルグ社 (Rustenburg Platinum Holdings Ltd.)、ポトゲテルスタスト社 (Potgieterstust Platinum Ltd.)、レボワ社 (Lebowa Platinum Mines Ltd.) の運営母体として設立され、ブッシュベルト複合鉱床帯において事業を実施している。

なお、アングロ・プラチナム社が生産する白金族金属は全てジョンソン・マッセイ社 (Johnson Matthey) を通じて市場に流通している。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

| オペレーション名 | 権益 ⁷ % | タイプ | 生産量 |
|---|----------------------|-----|-----------------------------------|
| ルステンブルグ (南アフリカ) Rustenburg | 100 | UG | 22.4 t Pt 9.6 t Pd 1.7 t Rh |
| アマンデルブルト (南アフリカ) Amandelbult | 100 | UG | 21.1 t Pt 9.3 t Pd 2.3 t Rh |
| ユニオン (南アフリカ) Union | 100 | UG | 8.7 t Pt 3.8 t Pd 1.3 t Rh |
| ポトゲテルスタスト (南アフリカ) Potgieterstust | 100 | OP | 6.6 t Pt 6.8 t Pd 0.5 t Rh |
| バフォケン・ラジモネ (南アフリカ) Bafokeng-Rasimone | 100 | UG | 4.0 t Pt 1.4 t Pd 0.2 t Rh |
| レボワ (南アフリカ) Lebowa | 100 | UG | 2.8 t Pt 1.7 t Pd 0.2 t Rh |

アングロ・プラティナム社は、南アフリカのブッシュベルト複合鉱床帯 (Bushveld complex) において、白金族の採掘を行っている。同鉱床帯の主な鉱床にはメレンスキー鉱床 (Merensky reef)、アッパー・グループ 2 鉱床 (Upper Group 2 reef; UG2 reef) 及びプラット鉱床 (Platreef) があり、アングロ・プラティナム社は、ポトゲテルスタスト鉱山ではプラット鉱床を、それ以外の鉱山ではメレンスキー鉱床及び UG2 鉱床を、対象に採掘を行っている。

メレンスキー鉱床/プラット鉱床及び UG2 鉱床のアングロ・プラティナム社分の埋蔵量及び品位は次表の通りである。

2001 年末の白金族埋蔵量及び品位

| 鉱床 | 確認埋蔵量/品位 | | 推定埋蔵量/品位 | |
|-------------|----------|------------------------|----------|------------------------|
| | 埋蔵量 百万 t | 品位 g/t 4E ⁸ | 埋蔵量 百万 t | 品位 g/t 4E ⁸ |
| メレンスキー/プラット | 109.7 | 5.29 | 641.9 | 4.75 |
| UG2 | 67.6 | 4.46 | 743.2 | 4.62 |
| 合計 | 177.3 | 4.97 | 1385.1 | 4.68 |

- 2000 年 5 月、現在の年間生産量 1.9 百万 oz (59 t) を 2006 年までに 3.5 百万 oz (109 t) とする 21 億 US\$ の拡張計画を発表しており、現在 5 つの新規鉱山開発、拡張プロジェクトと製錬所の建設を進めている。このうち、Maandagshoek 及び Styldrift プロジェクトに関しては、それぞれ黒人資本の African Rainbow Minerals 社と Royal Bafokeng Nation 社と JV を組み、黒人の経済的権利の向上 (Black Economic Empowerment) に配慮している。

(3) ベースメタル

アングロ・アメリカン社のベースメタル事業は、同社設立の際にミノルコ社の資産を統合し、銅、鉛、亜鉛、ニッケル、ミネラルサンドを対象に事業を行っている。

銅

チリにコジャワシ、マントス・ブランコス、マルトヴェルデの各鉱山に権益を有するほか、

⁷ アングロ・プラティナム社の権益。

⁸ 品位は、4E は "4 elements"、すなわちプラチナ、パラジウム、ロジウム、金の合計である。

カナダのハドソン・ベイ社の各鉱山に権益を有する。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

| オペレーション名 | 権益 % | 鉱量 百万 t | タイプ | 品位 | 生産量 (権益分) |
|---|---------|------------|-------|------------------------|------------------------|
| コジャワシ (チリ) Collahuasi | 44 | 1,868 | OP | 0.93 % | 453 千 t (199 千 t) |
| マントス・ブランコス (チリ) Mantos Blancos | 100 | 156 | OP、UG | 0.86 % | 102 千 t ⁹ |
| ハドソン・ベイ (カナダ) ¹⁰ Hudson Bay | 100 | 20 | UG | 1.96 % Cu 4.89 % Zn | 80 千 t Cu 88 千 t Zn |

- コジャワシ鉱山では、現在採掘中の Ujina 鉱体の鉱石品位低下に対応するため、隣接する Rosario 鉱体へ採掘の転換を進めており、その一環として、選鉱能力を 60,000 t/day から 110,000 t/day に拡張することとしている。2004 年 6 月には新選鉱場が稼動する予定であるが、鉱石品位が低下するため、銅生産量は現状維持となる見込みである。
- ペルーのケジャベコ (Quellaveco、アングロ・アメリカン 80%、世銀グループ 20%) プロジェクトは F/S を完了しているが、開発の決定はなされていない。同鉱山は埋蔵鉱量 938.4 百万 t (0.64 % Cu) を有し、鉱山ライフ 26 年で、平均 200,000 t の銅精鉱を生産予定。
- 2000 年 4 月にアングロ・アメリカン社は Zambia Copper Investment Ltd. (ZCI、アングロ・アメリカン社の権益 50.9%) を通じて、Konkola Copper Mines plc (KCM) の権益 65% を取得することで、コンコラ鉱山及びヌチャング鉱山の権益を ZCCM から取得した。しかし、2002 年 1 月に KCM の損失、銅及びコバルト価格の低迷等を理由に撤退を表明し、8 月にザンビア政府や ZCCM 等と合意に達した。
- 2002 年 5 月にチリ・Disputada de Las Condes 社 (CMD 社) を Exxon Mobile 社から 130 億ドルで買収することを発表し、11 月に完了した。CMD 社は Los Bronces 銅鉱山、El Soldado 銅鉱山及び Chagres 銅製錬所を保有しており、2001 年の生産量は Los Bronces 鉱山が 171 千トン、El Soldado 鉱山が 64 千トンである。
- 2002 年 5 月にブラジル Salobo プロジェクトから撤退した¹¹。

鉛・亜鉛

南アフリカのブラック・マウンテン鉱山及びアイルランドのリシェーン鉱山に権益を有する。なお、カナダのハドソン・ベイ社の亜鉛生産量は銅の項に記した。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

| オペレーション名 | 権益 % | 埋蔵鉱量 百万 t | タイプ | 埋蔵品位 | 生産量 (権益分) |
|--------------------------------------|------------------|--------------|-----|----------------------|--|
| ブラック・マウンテン (南アフリカ) Black Mountain | 100 | 12.7 | UG | 3.04% Pb 1.78% Zn | 46 千 t Pb 24 千 t Zn |
| リシェーン (アイルランド) Lisheen | 50 ¹² | 13.4 | OP | 1.83% Pb 11.6% Zn | 17 千 t Pb (9 千 t) 105 千 t Zn (53 千 t) |

- ブラック・マウンテン鉱山は当初後述するガンズベルグ (Gamsberg) プロジェクトへの

⁹ MMAJ 海外鉱業情報 Vol.32 No.1

¹⁰ Hudson Bay Mining & Smelting Co. Ltd. は、Callinan、Flin Flon 等の鉱山を保有し、生産量は同社の生産量の合計である。

¹¹ 詳細は CVRD 社の項を参照。

¹² リシェーン鉱山の残りの権益は Ivernina West 社が保有するが、アングロ・アメリカン社は同社に 24.5% の権益を保有するため、これを合わせると 62% の権益になる。

インフラの流用のために買収され、2002年に閉山の予定であったが、探鉱の結果、深部への交渉の延長が確認されたため、2000年5月、ブラック・マウンテン鉱山の深部への拡張工事を決定し、2013年まで生産が可能になるものとされている。

- ・ 2000年9月に、ナミビアのスコープイオン鉱山及び精錬所の開発を決定した（投資額454百万US\$）。スコープイオンでは、2002年末に生産を開始し、15年間にわたり150,000t/年の亜鉛生産を予定している。
- ・ 南アフリカのガンズベルグ・プロジェクトは2000年9月にF/Sを終えた。埋蔵鉱量145.3百万t、亜鉛品位6.04%で、年間300千tの亜鉛生産が計画されているが、亜鉛価格低迷を理由に現在開発は進められていない。

ニッケル

コデミン（ブラジル）、ピンジュラ（ジンバブエ）、ロマ・デ・ニッケル（ヴェネズエラ）の各鉱山に権益を保有している。なお、43%の権益を有していたボツワナのタチ鉱山は2002年3月に同鉱山に42%の権益を有していたLion Ore社に売却された。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

| オペレーション名 | 権益 % | 埋蔵量 百万t | タイプ | 品位 | 生産量 (権益分) |
|-----------------------|---------|------------|-----|-------|-------------------|
| コデミン（ブラジル） Codemin | 90 | 5.0 | OP | 1.37% | 6千t ¹³ |

- ・ 91%の権益を有するヴェネズエラのロマ・デ・ニッケル（Loma de Níquel）鉱山は、2001年1月に生産を開始した。2001年の生産量はフェロニッケル中のニッケル量で11,000t。
- ・ 他にジンバブエのピンジュラ（Bindura、権益53%）、ボツワナのBCL（権益23%）、オーストラリアのアナコンダ社（Anaconda Nickel Ltd.、権益26%）でニッケルを生産している。加えて、アングロ・プラティナム社がプラチナ鉱床からニッケルを生産している。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

93年から98年まで、アフリカ以外のベースメタルを対象とした探鉱開発はミノルコ社に委ねられていたが、アングロ・アメリカン社設立後は、同社の探鉱部門（Exploration & Acquisitions Division）が探鉱開発を統括管理している。

アングロ・アメリカン社は、ヨハネスブルグ、ロンドン、サンティアゴ、ヴァンクーヴァー、パース事務所を置き、25ヶ国で探鉱を実施している。

2001年の探鉱予算はUS\$69.0百万で、主要非鉄金属企業中4位であった。なお、この探鉱予算にはデ・ピアス社、アングロ・ゴールド社、アングロ・プラティナム社等の探鉱予算は含まれておらず、これらを加えた探鉱予算はUS\$151.4百万で、主要非鉄金属企業中1位である。

なお、2001年に探鉱地域の見直しを行い、探鉱対象国を23カ国から18カ国に減らした。この傾向は引き続いており、2002年にはさらに13カ国まで対象地域を減らしている。

(2) 対象鉱種

金の探査に関しては、アングロゴールド社は独自の探査を実施しているため、アングロ・アメリカン社はベースメタルを中心に探査活動を行っている。

(3) 対象地域・探鉱段階

アフリカ地域と中南米地域で探鉱予算の約62%を占めている。

探鉱段階に関しては、アングロ・アメリカン社はグラス・ルーツの探鉱に重点をおいてお

¹³ フェロニッケル中のニッケル量。

り、2001年の探鉱予算はグラス・ルーツ US\$58.2 百万(84%)、事業化調査 US\$4.2 百万(6%)、
 鉱山周辺探鉱 US\$6.6 百万 (10%) であった。



(4) 最近の動向

(アフリカ)

アフリカでは、銅、亜鉛、ニッケルをターゲットとして、ナミビア、南アフリカ、ザンビア、モザンビーク、トーゴ、モロッコで探鉱を実施している。

(中南米)

チリでは、ポーフィリー銅の探査を重点的に実施している。マントス・ブランコス鉱山及びマントヴェルデ鉱山の鉱量拡大のための周辺探鉱やグラス・ルーツからの探鉱を実施している。

ペルー、メキシコでは亜鉛を対象とした探査を実施中である。

(ヨーロッパ・インド)

リオ・ティント社との JV でスウェーデン北部のオリンピック・ダム型銅-金鉱床の探鉱を実施中である。

インドでは、鉛・亜鉛を対象として、Rajasthan 地域において探査を実施している。

(アジア・オーストラリア)

フィリピンでは、Philex Gold 社との JV によりミンダナオ島で探査を実施しており、Boyongan 地域でポーフィリー銅-金鉱床の探査を引き続き行っている。また、オーストラリアでは、亜鉛をターゲットにして探鉱を実施中である。